

在宅介護生活サポート事業について

1 趣旨

本市では、平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画【第8期】）令和3年度～令和5年度において『在宅介護生活サポート事業』を以下のとおり掲げています。

重点事業

事業概要	在宅生活の延伸や在宅における看取りを支えるため、市民への情報提供を行うとともに、地域の在宅医療及び介護関係者の連携を推進するためのサポート事業を検討し、展開します。
本計画 実施内容	住み慣れた地域、住まいで人生の最期を迎えるためには、医療職・介護職が連携してサポートすることが重要です。看取り期に焦点をあてた在宅生活における留意点や必要な支援、対応の仕方などを分かりやすく紹介するサポートガイド等のツールについて研究・作成します。

2 経過

令和3年度の動き

- ①県内全19市の看取りに関する支援状況調査を実施。
 - ・横浜市のツールに注目した。（別紙1及び別紙2）
- ②平塚市終末期に向けた活動支援事業検討会（以下、「終活検討会」という。）の看取りに関する意見集約。

（意見内容）

 - ・横浜市のような看取りサポートマップを作成し、ひらつか安心ファイルに綴ってはどうか。
 - ・検討会のメンバーでは看取りに直接関わることが少ないため、関係機関への意見が必要ではないか。

令和4年度の動き

- ①終活検討会の意見を踏まえ、訪問診療、居宅介護支援、訪問看護、訪問介護の関係機関へ意見照会を実施。（7月～8月）
- ②照会結果と終活検討会からの意見を踏まえ、方向性として、ひらつか安心ファイルに綴ることを想定した「看取りサポートマップ（仮称）」を作成することを、10月21日の終活検討会で提示。様々な意見があり、方向性については、ワーキンググループの立ち上げ検討を示唆。
- ③11月21日に開催した第2回平塚市医療介護連携推進協議会において、ひらつか安心ファイルに綴ることを想定した「看取りサポートマップ（仮称）」を作成することの方向性を示し、了承される。
- ④令和5年2月に医療・介護関係機関による在宅介護生活サポート事業ワーキンググループ（以下、「ワーキング」という。）を立ち上げ、令和5年3月9日に第1回ワーキング会議を開催。ツールの方向性として、在宅の始まりから看取りまでを場面としたサポートマップを作成することとなる。（構成メンバーの所属機関）

ありがとうみんなファミリークリニック平塚、ひなた訪問看護ステーション、ケアステーションカミヤ、ツクイ平塚中原、平塚中郡薬剤師会支援センター薬局、高齢者よろず相談センターふじみ、高齢者よろず相談センターゆりのき、平塚市在宅医療・介護連携支援センター

令和5年度の動き

- ① 5月11日に第2回ワーキング会議を開催し、ツール案を提示し、修正点などを確認。
- ② 7月13日に第3回ワーキング会議を開催し、ツール案の修正点を確認。また、サポートガイドを普及させるにあたっては、ただ配布する方法ではなく、使い方を別に作成し、研修などを通じて普及する方法が良いとの意見。
- ③ 10月12日に第4回ワーキング会議を開催し、ツール案（別紙3）の修正点や使い方（案）について提示し、意見をいただく。

3 今後について

- ・ワーキング会議を令和6年3月までに2回開催し、ツールと使い方を完成させ、研修の実施方法について意見を伺う。
- ・令和6年度以降は、ツールを普及させるための研修等を実施する。

4 協議会において伺いたい内容

- ・ツール案について、追加すべき項目などがあるか。
- ・研修の実施について、どのような方法がよいか。（動画配信、集合形式による研修会など）

以 上